

第2回中部圏広域地方計画協議会
第2回北陸圏・中部圏広域地方計画合同協議会

日時：平成21年6月11日（木）13：00～14：20

場所：名古屋国際会議場 3号館3階 国際会議室

1. 開会

2. 挨拶

（榊国土交通審議官）

- ・ 国土交通大臣は、法案審議が詰まっていることもあり、やむなく欠席。挨拶を代読したい。
- ・ 「金子国土交通大臣 挨拶」代読。
- ・ 世界的な経済危機を契機として、一体何が起きているかといった事を想定すると、この広域地方計画で、まず東アジアの活力を取り込むのだということが、冒頭にあったかと思う。このような経済情勢になればなるほど、その視点は正しかったのではないかと思っている。
- ・ 日本の経済は、消費が7割を占めており、決して外需に頼っている訳ではないが、企業がグローバル化し、諸外国における経済不況の影響を受けてしまう事から、中部圏も相当の影響を被っているのではないかと思う。
- ・ 経済危機は最長でも32ヶ月と言われており、それを考え、単純に計算すると昨今の経済不況も来年6月には回復している見込み。さらに、日本もアメリカもヨーロッパも、色々な経済対策、財政政策を講じているため、来年の今頃から、来年の終わりの頃には経済は持ち直しているのではないか。そのような事態を受けても、広域地方計画なり、社会資本の重点整備方針をきちんと仕上げ、実現化していくことが大切だと考えており、今日は是非その第一歩となればと思っている。

（北陸経済連合会：新木会長）

- ・ 北陸圏・中部圏の両圏域は、それぞれの協議会で広域地方計画を検討するとともに、両圏域の共通課題や、日本企業のマーケットの重点が東アジアに移行し、将来そのウエイトが高くなっていくという時代における日本海側と太平洋側の連携した取組等を検討するため、合同協議会を設置し、議論を進めてきた。
- ・ 本日は、最後の仕上げの段階を迎えている。これまでの議論の成果である、計画原案について、北陸・中部両圏が自立的に発展していくための戦略や、より具体的な未来を展望した計画づくりといった視点に立ち、忌憚のないご議論をいただき、両圏域の広域地方計画が実りのあるものになればと思う。
- ・ 広域地方計画の推進によって、多様な特色を持つ両圏域が交流、連携し、相乗効果によって、活力のある地域の形成を目指すとともに、両圏域それぞれの個性や特性を反

映した、独自性のある地域づくりが進むことを祈念する。

(愛知県：神田知事)

- ・ 昨年10月の第1回の会合以来、幹事会、WGで、様々な議論を積み上げてきた。
- ・ 今夏に大臣決定というスケジュールと聞いており、今後、パブリックコメント等も行われる、いわば大詰めの大変重要な時期での会議であり、実り多いものにしたいと思っているので、皆様のご協力をよろしくお願いしたい。

3. 議事

1) 北陸圏・中部圏広域地方計画合同協議会報告書原案について

- ①北陸圏・中部圏広域地方計画合同協議会報告書原案
- ②北陸圏・中部圏広域地方計画に係る市町村からの計画提案

(北陸圏事務局：大竹室長)

- ・ 資料1、資料2 説明

(意見特になし)

(愛知県：神田知事)

- ・ 北陸圏・中部圏広域地方計画合同協議会報告書の最終案の作成に向け、これから検討を進めていくため、よろしくお願いしたい。事務局もそのような方向で、準備、作業を進めていただきたい。

2) 中部圏広域地方計画 計画原案について

- ①中部圏広域地方計画 計画原案
- ②中部圏広域地方計画に係る市町村からの計画提案

(事務局：荒川室長)

- ・ 資料5、資料6 説明

(浜松市：鈴木市長)

- ・ 「多文化共生先進圏づくりプロジェクト」について、この地域は、ものづくりの先進的地域として際立っているが、それに伴い、外国人の労働者がたくさん入っている。長期的に滞在することにより、多文化共生は重要なテーマとなっている。
- ・ 浜松市も、全国で一番日系ブラジル人の多い市として位置づけられており、多文化共生づくりを大きなテーマとしている。各自治体で取り組むことも重要だが、連携をして、それぞれ知恵を絞りながら取り組むことも重要である。
- ・ 現在、外国人集住都市会議という組織があるが、もう一段上の広域連携の中で課題に取り組んでいけることは大変意義がある。

- ・ 今後、全国で同様の課題が出てくると思うので、中部圏が先進地域としてこのプロジェクトに取り組むことが大事だと思っている。
- ・ 経済危機の中、外国人の皆様は非正規雇用が多く、離職をされる方が多いが、それらの方々の新たな就職活動において、一番課題になるのは日本語の問題である。日本で長く暮らしていただくためには、日本語を如何に習得していただくかが重要である。
- ・ 浜松市でも、外国人学習支援センターなどの拠点施設を中心に、日本語教室を精力的に行っている。それらの取組と同時に、生活全般に渡って支援をしていかななくては行けない。特に、子どもたちの教育支援が大変大きな課題である。公立学校へ入る外国人はよいが、そうではない外国人学校に行っている子供達への支援は、公費で調整し難い。よって学校にではなく個人に対し、子供達の教科書購入の支援を、浜松市単独で行っている。市単でやっている取組はある訳だが、限界がある。外国人集住都市会議もさることながら、こうした広域圏でも、文科省を始めとした国に対して色々な提言をしていくことが重要である。
- ・ 「三遠南信流域都市圏活力向上プロジェクト」について、特段、この地域を取り上げていただき、大変感謝している。県境を越えた広域連携ということで、日本の中でも際だった取組なのではないか。
- ・ 基幹幹線となる三遠南信自動車道の整備を始め、この連携ビジョンに盛り込まれた具体的なプロジェクトの推進をしていく所存であり、特に、三遠南信自動車道に関しては、この圏域にとって重要な社会資本であるため、早期全面開通に向けて、よりご支援をお願いしたい。
- ・ 三遠南信の取組は、今後の道州制の議論で、どのように分けていくかといった時、こうした県境を越えた強固な地域連携があるのだということも、道州制の論議に一石を投じることができるのではないかと。地域が主体的に独自に取り組む地域主権の取組として発信をしていきたい。

(名古屋市：河村市長)

- ・ 名古屋の観光地はどこだと聞かれても、ここだという答えがない。今こそ名古屋の精神的基柱が求められている。そのためには、アイデンティティを発掘していくことが必要である。
- ・ 名古屋で何が有名かと聞くと、一番多い答えは信長である。信長は、寺や貴族が縄張りを作っていた当時の貴族文化の中で、庶民革命を行った。これはまさに私の行おうとしている改革と同じであり、東京、大阪に負けない基軸を作らなくては行けない。
- ・ 国宝第一号だった名古屋城の天守閣が焼失してしまったが、当時の図面が完全に残っており、復元可能である。木造で完全復元し、1000～1500年残していければと思う。
- ・ 精神的基柱ということで、最近では、歴史的建造物の保全や名古屋ことばの復権にも力を入れている。
- ・ いきもの共生のプロジェクトについて、「生物多様性」という言葉が難しい。この言葉をどのように広げていくかが1つのテーマとなっている。
- ・ COP10は名古屋国際会議場などで開催されるが、日本の風土に合わせた環境政策ということで、「冷暖房のいらぬまち名古屋」に挑戦したい。

(中部経済連合会：川口会長)

- ・ この世界的な経済危機で、中部圏も衝撃が大きいところである。こういった時期に、中部圏の広域地方計画の計画原案が作られるわけだが、広域ブロック圏における共通のビジョンを共有化できる計画として作られた。さらにこれから、人口減少社会を想定した初めての計画として作られたということは、大きな意味があると思う。
- ・ 今後、計画を具現化して行き、この広域の地域の発展に繋がっていくことが望まれる。限られた原資の中で、プライオリティを適切につけて進めていくといった、本計画の実現に向けた進め方を明確に作っていただきたい。
- ・ 各省庁、各自治体が一体となって連携し、縦割り、行政域の縛りから脱却して取り組んでいただきたいと思う。
- ・ 経済団体としても、これからの分権社会、中部州的なイメージを作って提言を既に行っているが、これからの国のあり方、行政システムのあり方のようなところにも、この計画が整合性を持って生きてくるとよい。
- ・ 広域計画の中で重要なのは、社会資本の整備である。中でも国際競争力を強化していくためには、物流、観光もそうであるが、わが国の力を強くしていく、この地域を強くしていくことが重要であり、是非、中部国際空港の2本目滑走路の整備を位置づけ、24時間使える真の国際空港としての整備を進め、将来に備えたいという要望がある。空のゲートウェイは非常に重要であり、日本海と太平洋側、両方にとって使い勝手の良い、効率的な空港として育てていく。そのためには、2本の滑走路で24時間使えるようにしていきたい。
- ・ 東海北陸自動車道が整備され、日本海と太平洋側の交流に活かされている。出来るだけ早く、全線完全4車線化が望まれる。中国大陸、韓国等、日本海側の物流が変化してきているため、道路のさらなる強化が必要である。
- ・ 三遠南信も、地域の経済活性化のためには、非常に重要な地点だと思っている。
- ・ 経済情勢が厳しい時だが、将来の布石として社会資本整備をお願いしたい。

(愛知県：神田知事)

- ・ これから10年先を見越した中部圏の羅針盤となっている。
- ・ コンセプトとして、ものづくりと環境の2つを中心に据えて、中部圏全体に位置づけた事はとても重要なことである。
- ・ 特にものづくりについて、この地域は、日本どころか世界の中心的な役割を果たしており、経済情勢が低迷している中、日本が元気になるためには、この地域のものづくりが元気を取り戻すことに尽きると思う。
- ・ ものづくりは、50年、100年前の従来の形をそのまま踏襲するだけでは時代遅れになってくる。今回、リーディングプロジェクトとして、「ものづくり産業の競争力強化プロジェクト」、「次世代産業イノベーションプロジェクト」が位置付けられているが、これは非常に重要なことだと考えている。
- ・ 次世代に期待される航空宇宙分野のうち、とりわけ航空機産業については、つい数日前にJAXAが名古屋空港の隣接地に、試験飛行センターの立地を決定した。これは、

大変裾野の広い、波及効果のある産業であるため、主力の自動車はもちろんのこと、こういったものの厚みを増し、ものづくりの集積をさらに充実させていきたいと思っている。また、ナノテクや、バイオなどももちろん重要。こういったものが、この地域のものづくりの牽引役となるよう、しっかり育成して参りたい。

- ・ 環境という切り口について、おそらくこの21世紀は、環境に明け、環境に暮れるくらい、重要なコンセプトだと思っている。環境をないがしろにしては、民間も行政も政治も生きていけない時代になった。
- ・ 先達ての中部圏知事会議で COP10 に向けて積極的にご協力いただき、応援しようという意思確認をさせていただいた。COP10 では、世界中の自治体が集まる自治体会議を開催することになっている。これは将来またフィードバックされ、地域の環境づくりに大いに活かされていくものと思っている。
- ・ 国も、低炭素革命と大きく旗を振っている時だけに、広域地方計画の中に、こうした環境を前面に出していただいたことを、高く評価したい。
- ・ この計画をどう実行していくかが重要である。モニタリングや、フォローアップを上手に進めないと、単なるアドバルーンに終わってしまう。進行管理について、我々地方の立場からも協力を申し上げるが、よろしく願いたい。
- ・ インフラのところでは若干付け加えたいが、やはり観光が重要である。ものがなかなか動かない時は人が動く。その動く大きな動機付けはやはり観光である。中部圏にはまだまだすばらしい観光資源が山のようにある。中部国際空港2本目滑走路、様々な道路網、港湾など、インフラ整備については抜かりなく進め、将来この地域の財産となるようにしていきたいと思っている。

(福井県：旭副知事)

- ・ 中部圏の広域地方計画だが、圏域内での基幹的な政策等を盛り込むことはもちろん必要だが、それと併せて、圏域の発展、あるいは産業振興を図るためには、周辺地域との結びつき、圏域内外の連携を強める戦略をここに盛り込み、中部圏の求心力の強化を図るという視点が非常に大事である。
- ・ 中部と北陸の、人・物・金の流れという連携を深め、ネットワークのミッシングリンクを解消するという意味で考えると、北陸新幹線の位置づけをもう少し明確に出していただくことが必要ではないか。
- ・ **資料5** P49 の新幹線について、「政府・与党申合せ等に基づく北陸新幹線の必要な整備等による鉄道ネットワークの充実等…」と記述されているが、これだけでは、中部・北陸のどこの地域で北陸新幹線を進めていくかが不明である。
- ・ 新幹線は、国土政策上、国の責任において速やかに進めるべきインフラであるため、もう少し具体的に明記されてもいいのではないか。これまで、長野ー金沢間の工事が進んできているわけだが、昨年12月の政府与党のWGの合意の中では、ようやく、金沢白山総合車両基地ー福井までの建設、あるいは敦賀駅部の整備が盛り込まれ、着工調整費も計上されている。敦賀までの整備ができると、中京をまんなかにして、関東・関西との広域的な環状ネットワークが構築される。また、東海大地震の際にも代替補完機能ができる。

- ・ 中部と、首都圏、信越、北陸、関西間のアクセスが向上することはもちろんだが、中部圏内での交流人口も増加し、観光や産業面でも、大きな効果を発揮できる。
- ・ P49 の記述を、「政府・与党申合せ等に基づき、現在進めている長野一金沢間の工事と併せて、これに続く区間である白山総合車両基地、大阪までの必要な整備等による鉄道ネットワークの充実・・・」といった内容にできないか。そうすれば、中部・北陸の中での位置づけが、あるいは将来の見通しが出てくるのではないかと思う。
- ・ 同じく P49 に、中部縦貫自動車道という言葉が入っているが、勝山―大野間を平成 24 年度に完成させるという発表があり、東海北陸自動車道と併せて、南北、東西の軸が一步進むことになる。これについては、大いに感謝を申し上げたい。

(事務局：荒川室長)

- ・ 皆様方からいただいた意見は、大所高所からのご意見として承らせていただきたい。これからの計画の実施にあたり、非常に重要な意見だと思っており、実施にあたっては、肝に銘じ、具体化に向けて取り組ませていただきたい。
- ・ 個別のプロジェクトとして、北陸新幹線の話があったが、これについては、政府与党の申し合わせに基づいてやっていくという基本方向はしっかり書いてあり、今後 10 年間を見通した時に、これで必要かつ十分な書きぶりになっていると思っているが、そこについては、本省からもご説明があれば、お願いしたい。

(国土計画局：川本局長)

- ・ 元々ものづくりの地域であるということについては、非常にイメージが鮮明であった。これに加えて、環境という軸をもう一つ作り、ものづくりと環境でこの地域づくりを進めていくのだということで、非常に特徴のある計画をお作りいただけた。
- ・ 今後、具体化に向け、各省庁の縦割りや、自治体の地域割りの中に落ち込まないように、できるだけ、横割りで総合的にやりたいと思っている。
- ・ プロジェクトも、いわゆるインフラの整備を単体と捉えて、それだけをやるというわけではなく、それをやって、いかに活かしていくのか、ソフトと融合させることによって、地域の経済の浮揚や、地域の生活基盤の強化に、いかに結びつけていくのか、という組み合わせになっていると思う。
- ・ 個別事業以外に、潤滑剤というか、接着剤というか、ソフト面で連携をしていただくための予算を用意している。出来るだけ各省庁、自治体毎にならないように、またご相談させていただきたい。
- ・ 推進機関については、この計画が出来た後も、協議会として残していただき、具体的な事業の進め方、その後、具体的に生じた問題等についてもご議論していただけるような形にしていきたいと思っている。
- ・ 広域地方計画は、今後 10 年間でどのようなことを取り組むのかを記載するもの。整備新幹線の問題については、取扱について未定の区間があるが、これは 21 年末に結論を出すことになっている。それも踏まえ、必要があれば、また見直すことになろうかと思う。書きぶりについての詳細は、事務的に調整するが、この計画自体が、個別の公共事業の箇所毎、1 つ 1 つをどうこうするという議論ではなく、地域の方向性を示し、

それに必要なインフラのあり方の位置づけをしていくという構成になっているため、一箇所だけ駅名を記述するとかいうことはないと思う。そのあたりはバランスをとりながら調整させていただきたい。

(愛知県：神田知事)

- ・ 中部圏広域地方計画原案については、今日頂いた様々なお意見、これから実施するパブリックコメントの内容を踏まえ、事務局において最終案を作成していただきたい。
- ・ パブリックコメントについては、本日の計画原案をもって行う点をご了解をお願いしたい。
- ・ パブリックコメントその他により、必要となる修正については、各構成機関に改めて確認をする。本協議会の協議結果の取りまとめについて、改めてこの協議会は開催せず、協議会会長から国土交通大臣に回答させていただきたいと考えている。
- ・ 市町村からの計画提案の対応についても、今日の説明の方向で取り計らいたいが、異議はないか。

(異議なし)

4. 閉会

以上